



スター誕生

AS STARS
BOBBI

この愛を私は生涯忘れない!
スターの座よりも栄光よりも
私はあなたがほしかった……
これが胸うつ現代の愛!



バーブラ・ストライサンド
クリス・クリストファーソン

製作 ジョン・ピーターズ / 監督 フランク・ピアソン
製作総指揮 バーブラ・ストライサンド
脚色 ジョン・グレゴリー・ダン / ジョーン・ディディオン / フランク・ピアソン
原作 ウィリアム・ウェルマン / ロバート・カーソン

パーウッド / ジョン・ピーターズ・プロダクション / ファースト・アーチスト・プロ作品 / ワナー・ブラザーズ映画
オリジナル・サウンドトラック盤 © BS ソニー・レコード

A First Artists Presentation From Warner Bros. A Warner Communications Company

「スター誕生」といえば、映画ファンなら誰でもすぐに思い出すのが、今はなきジュディ・ガーランド主演による一九五三年の名作だが、実は今回の作品は4度目の映画化。栄光をめざして生きた男と女のそれ故にこそ悲劇的な愛の物語が、いかに時代を越えて人々の感動を呼びつづけてきたかがよく証明されているが、前三作がそろって映画界を舞台にしているのに対し、最も現代的な音楽界を下ラマの背景に選んでいることがなんといつてもこの最新作のきわだった新しさといえよう。

主演は、アカデミー主演賞受賞の「フアンニ・ガール」から「おかしなおかしな大追跡」「追憶」へと、歌手としてのみならず演技派女優としてもめざましい成熟を見せつつあるバーブラ・ストライサンド。

そして相手役は、現実には音楽界のスーパースターとして「アリスの恋」「午後の曳航」など映画にもユニークな個性派ぶりを発揮しているクリス・クリストファーソン。

実はこの映画はバーブラと彼女の恋人ジョン・ピーターズとの企画によるもので、プロデューサーをつとめるジョンをたすけ、彼女自身も製作に参加しているが、あふれる意欲は作詞作曲にまで及んで、大御所ポール・ウリアムスの詞に彼女が曲をつけた名曲「エバグリーン」(スター誕生の愛のテーマ)や、さらにもう1人の大御所レオン・ラッセルと共同で作詞作曲した「愛に迷って」などにもつきから結果をみせており、そのほかにもつきからつきへと流れる挿入歌は、ケニー・アッシュャー、ドナ・ワイズなど、すべて一流のミュージシャンの手になるものばかりだ。

この映画の最大の見せ場ともいえるべき野外コンサート・シーンは、フェニックスにあるアリゾナ州立大学のスタジアムに6万の観衆を集め、午前7時から10時間にわたって撮影された。



本年度ゴールデングローブ賞5部門受賞(ミュージカル部門)
★最優秀作品賞★最優秀主演女優賞★最優秀主演男優賞
★最優秀作曲賞★最優秀主題歌賞
★本年度アカデミー賞4部門最有力候補!
★主題歌賞★作曲賞★撮影賞★サウンド賞

スター誕生



■キャスト■
エスター・ホフマン……………バーブラ・ストライサンド
ジョン・ノーマン・ハワード……………クリス・クリストファーソン
■スタッフ■
監督フランク・ピアソン/撮影ロバート・サーティス
製作ジョン・ピーターズ/製作総指揮バーブラ・ストライサンド

＊ストーリー

エスター・ホフマン(バーブラ・ストライサンド)はトップ歌手を夢み、小さなクラブで歌っていた。どんなに小さな舞台でも歌っている彼女にとっては、明日の大舞台への夢をつなぐ大事なステージなのだ。それをめちやめちやにした男が、今をときめく歌手ジョン・ノーマン・ハワード(クリス・クリストファーソン)だった。酒に酔って入って来たジョンが、他の客と大ゲンカを始めてしまったのだ。エスターはジョンの手をとって裏口から逃げてくれた。すっかりエスターを気に入ってしまったジョンは、彼女の家の前で一夜を過ごす。早速朝食用のピッツアを持ってドアを叩いた。朝食のあとジョンは遠くの町で開かれる彼のコンサートにエスターを誘った。彼女に異存のあろうはずもなく同行。

れたものである。即興の歌を作ったりしているうちに2人は深まる愛を感じ合っていた。初めて会った時からエスターの才能を認めていたジョンは、エスターをレッスンした。それは厳しいものであったが、どんなに厳しくともそこには愛があった。エスターはめきめき才能をのびていった。あとはチャンスがあれば良かった。ジョンは自分のコンサートを彼女に与えた。僕の歌はもう聞きあきたでしよう。新しい歌声に耳をすましてみませんか?。突然の事に驚いたエスターだったがやがて不満の声の中を歌い始めた。すぐに場内は静かになった。歌い終ると凄まじい拍手が鳴り響いた。大成功だ。アンコール曲を歌った後も拍手はますます激しくなるばかりだった。

その帰り道、エスターはジョンに結婚を申し込んだ。ジョンは彼女の輝かしい未来を考えると、やがて自分の存在が彼女の邪魔になりはしないかという不安が湧きおこったもの、もとより彼も彼女を愛していたし、彼女が自分を必要としているという言葉に彼の心は定まった。

見知らぬ人々の祝福を受け、2人きりの結婚式を挙げると、ジョンの持っていたアリゾナの牧場へハネムーン。そこで2人は自分たちの家を建てた。何から何まで自分たちの手でやらなければならなかったが、つらくはなかった。誰にも邪魔されぬ2人きりの生活は夢のように楽しい毎日だった。

だが、突然消えてしまったエスターを放っておくはずがない。ある日遂に2人の愛の巢は発見されてしまった。——今やエスターの人氣はとどまるところを知らなかった。だが、それに反比例するようにジョンの存在は次第に忘れられていくのだった。愛するエスターも身近にはいない。ジョンの心は寂しさにむしばまれていった。ついにエスターはグラミー賞を受けた。その会場でジョンがやって来た。心から彼女にお祝を言おうと思っていたのだ、ただちよつと飲み過ぎていただけだった。会場はめちやめちやになつてしまった。ジョンの心はますます荒んでいった。

そしてある朝、彼は愛車フェラーリに乗ったまま遂に帰らぬ人となった。悲しみのどん底につき落されたエスターは、ジョンの追悼コンサートで歌い始めた。それは彼女が悲しみをのりこえて、より偉大なスターになることを暗示するかのよう素晴らしいものだった。

3月12日春休み (土)ロードショー
丸の内ピカデリー (201) 2881
★前売り鑑賞券1000円発売中 (一般1300円・大学生1200円の処劇場窓口にて)
平日 10:40 1:20 4:10 7:00
日・祝 10:10 12:50 3:40 6:30

1977年ゴールデン・グローブ賞 ■ 最優秀作品賞 / 最優秀主演女優賞 / 最優秀主演男優賞 / 最優秀作曲賞 / 最優秀主題歌賞受賞

STREISAND

KRISTOFFERSON



[70mm]

スター誕生

バーブラ・ストライサンド / クリス・クリストファーソン

STAR IS BORN

ワーナー・ブラザーズ・プロダクション (スター誕生) / 製作 ジョン・ピーターズ / 監督 フランク・ピアソン / 製作総指揮 バーブラ・ストライサンド
脚本 ジョン・グレゴリー・ダン / ジョーン・ディディオン / フランク・ピアソン / 原作 ウィリアム・ウェルマン / ロバート・カーソン
ファースト・アーチスト・プロ作品 / ワーナー・ブラザーズ映画

A First Artists Presentation From Warner Bros. A Warner Communications Company

オリジナル・サウンドトラック盤 (CBS ソニー・レコード)

＊かいいせつ

「スター誕生」といえば、映画ファンなら誰でもすぐに思い出すのが、今はなきジュディ・ガーランド主演による一九五三年の名作だが、実は今回の作品は4度目の映画化。栄光をめざして生きた男と女のそれ故にこそ悲劇的な愛の物語が、いかに時代を越えて人々の感動を呼びつけてきたかがよく証明されているが、前三作がそろって映画界を舞台にしていたのに対し、最も現代的な音楽界をドラマの背景に選んできたことがなんといつてもこの最新作のきわだった新しさといえよう。

主演は、アカデミー主演賞受賞の「フアンニール・ガール」から「おかしなおかしな大追跡」「追憶」へと、歌手としてのみなならず演技派女優としてもめざましい成熟を見せつつあるバーブラ・ストライサンド。

そして相手役は、現実音楽界のスーパースターとして、「アリスの恋」後の曳航」など映画にもユニークな個性派ふりを発揮しているクリス・クリストファーソン。

実はこの映画はバーブラと彼女の恋人ジョン・ピーターズとの企画によるもので、プロデューサーをつとめるジョンをたすけ、彼女自身も製作に参加しているが、あふれる意欲は作詞作曲にまで及んで、大御所ポール・ウィリアムスの詞に彼女が曲をつけた名曲「エバグリーン」(スター誕生の愛のテーマ)や、さらにもう1人共の大御所レオン・ラッセルと共同で作詞作曲した「愛に迷って」などにもひとつな結果をみせており、そのほかにもつきからつきへと流れる挿入歌は、ケニー・アッシュャー、ドナ・ワイズなど、すべて一流のミュージシャンの手になるものばかりだ。

この映画の最大の見せ場ともいえるべき野外コンサート・シーンは、フェニックスにあるアリゾナ州立大学のスタジアムに6万の観衆を集め、午前7時から10時間にわたって撮影された。

監督は「狼たちの午後」(76年度アカデミー最優秀脚本賞受賞)などの脚本家として今まで有名だったフランク・ピアソン。今回のシナリオもジョン・デイヴィオン、ジョン・グレゴリー・ダンと共作している。撮影は「ペン・ハー」ほかで三たびアカデミー賞を受けている「おもいで」の夏「ステイキング」のベテラン、ロバート・サージェイの担当。バーブラとクリスをかこむ第一級の共演者たちにまぎって、「ハリートント」の監督ポール・マザースキーや、映画の仕事のないときはレオン・ラッセルの5000ドルを「ゲートキーパー」等が演技陣にキャストされているのも作品の味わいをつくそう深いものになっている。

(上映時間2時間20分)



スター誕生



＊ストーリー

エスター・ホフマン(バーブラ・ストライサンド)はトップ歌手を夢み、小さなクラブで歌っていた。どんなに小さな舞台でも歌っている彼女にとっては、明日の大舞台への夢をつなぐ大事なステージなのだ。それをめちやめちやにした男が、今をときめく歌手ジョン・ノーマン・ハワード(クリス・クリストファーソン)だった。酒に酔って入って来たジョンが、他の客と大ゲンカを始めてしまったのだ。エスターはジョンの手をとって裏口から逃げてくれた。すっかりエスターを気に入ってしまったジョンは、彼女の家の前で一夜を過ごす。早速朝食用のピッツアを持ってドアを叩いた。朝食のあとジョンは遠くの町で開かれる彼のコンサートにエスターを誘った。彼女に異存のあろうはずもなく同行。

そのステージのスケールの大きさに、彼女はただただ目を見張るばかりだった。ジョンの万人もの観客を前に好き勝手なことをしているのだ。観客に背を向けて歌い続けたかと思うと、今度はステージを駆け回り、ファンのバイクを借りてそのまま舞台の上を暴走。あげくのはては舞台をめちやめちやにして、オートバイもろとも転落してしまった。彼は病院に運ばれ、コンサートも終わったが、エスターは帰るすべもなく一人会場に残された。

2人が再会したのは放送局だった。もちろんエスターは怒っていたが、初めて会った時からジョンにひかれていた彼女は強引なジョンの誘いに、彼の家へついていった。彼の家はさすがにスーパースターの家にふさわしく、豪華なものであった。彼専用のスタジオもエスターにとっては夢のような設備が施さ

■ キャスト ■
 エスター・ホフマン.....バーブラ・ストライサンド
 ジョン・ノーマン・ハワード.....クリス・クリストファーソン

■ スタッフ ■
 監督 フランク・ピアソン / 撮影 ロバート・サージェイ
 製作 ジョン・ピーターズ / 製作総指揮 バーブラ・ストライサンド

れたものである。即興の歌を作ったりしているうちに2人は深まる愛を感じ合っていた。初めて会った時からエスターの才能を認めていたジョンは、エスターをレッスンした。それは厳しいものであったが、どんなに厳しくともそこには愛があった。エスターはめきめき才能をのびていった。あとはチャンスがあれば良かった。ジョンは自分のコンサートを彼女に与えた。「僕の歌はもう聞きあきたでしょう。新しい歌声に耳をすましてみませんか?」。突然の事に驚いたエスターだったがやがて不満の声の中を歌い始めた。すぐに場内は静かになった。歌い終ると凄まじい拍手が鳴り響いた。大成功だ。アンコール曲を歌った後も拍手はますます激しくなるばかりだった。

その帰り道、エスターはジョンに結婚を申し込んだ。ジョンは彼女の輝かしい未来を考えると、やがて自分の存在が彼女の邪魔になりはしないかという不安が湧きおこったものの、もとより彼も彼女を愛していたし、彼女が自分を必要としているという言葉に彼の心は定まった。

見知らぬ人々の祝福を受け、2人きりの結婚式を挙げると、ジョンの持っていたアリゾナの牧場へハネムーン。そこで2人は自分たちの家を建てた。何から何まで自分たちの手でやらなければならなかったが、つらくはなかった。誰にも邪魔されぬ2人きりの生活は夢のように楽しい毎日だった。

だが、突然消えてしまったスターを放っておくはずがない。ある日遂に2人の愛の巢は発見されてしまった。——今やエスターの人氣はとどまるところを知らなかった。だが、それに反比例するようにジョンの存在は次第に忘れられていくのだった。愛するエスターも身近にはいない。ジョンの心は寂しさにむしばまれていった。ついにエスターはグラミー賞を受けた。その会場でジョンがやって来た。心から彼女にお祝いを言おうと思っていたのだ、ただちよつと飲み過ぎていただけだった。会場はめちやめちやになってしまった。ジョンの心はますます荒んでいった。

そしてある朝、彼は愛車フェラーリに乗ったまま遂に帰らぬ人となった。悲しみのどん底につき落されたエスターは、ジョンの追悼コンサートで歌い始めた。それは彼女が悲しみをのりこえて、より偉大なスターになることを暗示するかのよう素晴らしいものだった。

3月中旬 春休み
ロードショー

国電有楽町下車・朝日新聞社ウラ
丸の内ピカデリー (201) 2881

★前売り鑑賞券1000円発売中
 (一般1300円、大学生1200円のところ劇場窓口にて)

平日	10:40	1:20	4:10	7:00
日・祝	10:10	12:50	3:40	6:30